

日本気象学会2016年度春季大会 出展・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご協力を頂きました（2016年3月25日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。

< 出展・協賛・協力 >

株式会社アイ・アール・システム*
株式会社朝倉書店
有限会社イーオーアール*
英弘精機株式会社*
Exelis VIS 株式会社*
学術図書出版 大空社
オフィス気象キャスター株式会社
サイバネットシステム株式会社*
全日本空輸株式会社
ダイヤモンドエアサービス株式会社
日本気象株式会社*
一般財団法人日本気象協会*
日本無線株式会社*
株式会社ニューテック*
株式会社日立パワーソリューションズ*
株式会社フィールドジョイ*
株式会社フィールドプロ*
株式会社プリード*
三菱電機株式会社*
(五十音順)

*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。

日本気象学会 2016年度春季大会

会期：2016年5月18日（水）～21日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
（<http://nyc.niye.go.jp/>）

大会実行委員会担当機関：気象庁

大会委員長：隈 健一（気象庁観測部）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局
（国立オリンピック記念青少年総合センター415会議室（センター棟 4F））
TEL 080-3589-9716（大会期間中のみ有効）
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板上に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図

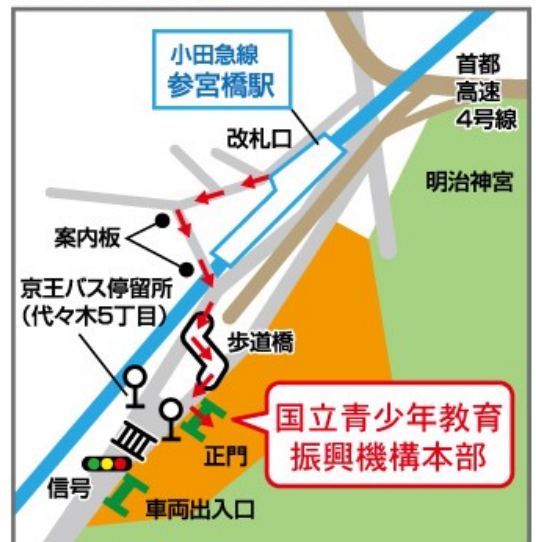


国立オリンピック記念青少年総合センターホームページより

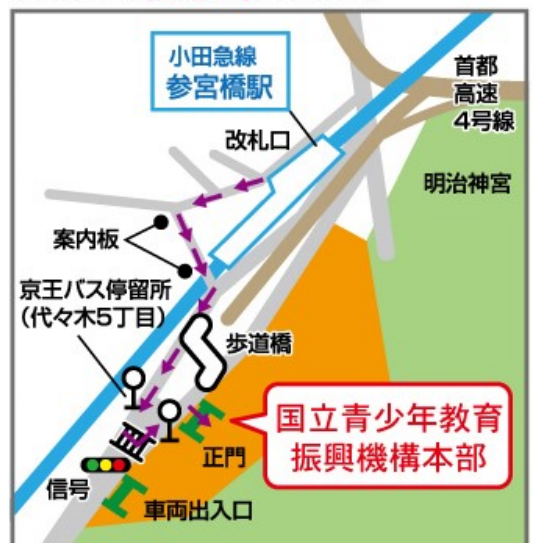
交通の案内

- 小田急線：
新宿駅から各駅停車 約3分
「参宮橋」駅下車 徒歩 約7分
- 地下鉄千代田線：
「代々木公園」駅下車 徒歩 約10分
- 京王バス：
新宿駅西口16番より 「代々木5丁目」下車
渋谷駅西口14番より 「代々木5丁目」下車

参宮橋からの【歩道橋】を使った経路



参宮橋からの【横断歩道】を使った経路



大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F)
 B会場 : 309会議室 (センター棟 3F)
 C会場 : 310会議室 (センター棟 3F)
 D会場 : 311会議室 (センター棟 3F)
 ポスター会場: 401・402・403・405会議室 (センター棟 4F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

総会・記念講演・シンポジウム: 大ホール (カルチャー棟)
 受付 : 416会議室 (センター棟 4F)
 大会事務局 : 415会議室 (センター棟 4F)
 懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 18日 (水)	10:00～ 11:30	気候システムⅠ (6, A101～A106)	降水システムⅠ (6, B101～B106)	相互作用 (5, C101～C105)	環境気象・気象教育 (6, D101～D106)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (36, P101～P136)			
	13:30～ 17:00	気候システムⅡ (14, A151～A164)	降水システムⅡ (15, B151～B165)	気象予報・データ同化 (13, C151～C163)	大気力学 (13, D151～D163)
5月 19日 (木)	09:30～ 11:30	気候システムⅢ (8, A201～A208)	降水システムⅢ (8, B201～B208)	熱帯・台風Ⅰ (8, C201～C208)	観測手法Ⅰ (7, D201～D207)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P201～P234)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞・岸保賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 20日 (金)	09:30～ 11:30	気候システムⅣ (9, A301～A309)	降水システムⅣ (8, B301～B308)	熱帯・台風Ⅱ (8, C301～C308)	観測手法Ⅱ (7, D301～D307)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (35, P301～P335)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「竜巻の観測・予測の現状と将来」			
5月 21日 (土)	09:30～ 11:30	中高緯度大気 (6, A401～A406)	放射 (8, B401～B408)	熱帯・台風Ⅲ (8, C401～C408)	観測手法Ⅲ (6, D401～D406)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (6, P401～P406) ジュニアセッション (10:30～12:30)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「台風災害 ～台風列 島でどう生き延びるの か?～」	専門分科会 (13, B451～B463) 「雷放電の理解とその 応用」	物質循環 (13, C451～C463)	大気境界層 (10, D451～D460)

発表件数: 316件 (専門分科会13, 口頭発表192, ポスター111)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2016s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンペナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行

って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150cm×横180cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。画鋏は各自でご用意下さい。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は09:00～17:30、大会第4日目は09:00～14:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「竜巻の観測・予測の現状と将来」

日時：大会第3日（5月20日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：鈴木 修（気象庁気象研究所）

趣旨：

2006年は、北海道佐呂間町と宮崎県延岡市において2つの顕著な竜巻被害が発生し、竜巻を含む突風に対する気象庁の対応や多くの竜巻関連研究のきっかけとなった年である。この10年間で、わが国における竜巻の観測・予測は大きな進歩を遂げた。

気象庁では、ドップラーレーダーの全国展開、竜巻発生後の機動調査班による現地調査など観測・調査体制を強化するとともに、竜巻注意情報、竜巻発生確度ナウキャストなど情報の提供も開始された。また、従来の藤田スケールに代わる新たなスケールの開発、高解像度な数値予報モデルにより再現されたスーパーセルや竜巻状渦の研究、地球温暖化に伴う発生頻度が高まる可能性を指摘する研究なども進んでいる。

しかし、竜巻に対する予測精度や実態解明の現状は、社会の期待に答えるためには、まだ大きな課題がある段階であるのが実状である。本シンポジウムでは、10年の節目を迎え、竜巻の観測・調査や予測・情報提供の現状と研究の最前線の取り組みを概観し、将来を展望する。

プログラム：

- 1) 「気象庁における竜巻等突風に関わる業務の概要」
中里 真久（気象庁予報部予報課）
- 2) 「日本版改良藤田スケール（JEFスケール）の策定」
田村 幸雄（東京工芸大学）
- 3) 「竜巻観測の現状と課題」
小林 文明（防衛大学校）
- 4) 「数値シミュレーションを用いた竜巻の発生機構に関する研究」
益子 渉（気象庁気象研究所）
- 5) 「竜巻—その環境場の理解と予測可能性にむけて—」
新野 宏（東京大学大気海洋研究所）
- 6) 「総合討論」
司会：新野 宏（東京大学大気海洋研究所）

※各講演時間は質疑応答込で30分です。

問い合わせ先：安部俊司（気象庁観測部計画課情報管理室）

TEL: 03-3212-8341（内線4154）

E-mail: sambe@met.kishou.go.jp

総 会

日時：大会第2日（5月19日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 開会 | (3) 2015年度監査報告 |
| 2. 議長選出 | (4) 第39期役員の選任について |
| 3. 理事長挨拶 | 9. 報告 |
| 4. 2016年度日本気象学会賞授与 | (1) 2016年度事業計画 |
| 5. 2016年度藤原賞授与 | (2) 2016年度収支予算 |
| 6. 2016年度岸保賞授与 | (3) その他 |
| 7. 2015年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告 | 10. 議事録署名人の指名 |
| 8. 議事 | 11. 議長解任 |
| (1) 2015年度事業報告 | 12. 閉会 |
| (2) 2015年度収支決算報告 | |

専門分科会の概要紹介

2016年度春季大会では下記の通り、1件の専門分科会が開かれます。

雷放電の理解とその応用

日時：大会第4日（5月21日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：雷放電の理解を目的として積乱雲内の電荷分離機構や雷放電過程などに着目した最新の研究の集約を行う。さらに応用分野として雷放電データの利活用など幅広く雷放電・雷活動も取り上げ、議論を行う。具体的には以下のテーマを主に取り上げる。

- (1) 積乱雲内の電荷分離機構に関する研究：気象レーダーと雷観測データを用いた事例解析，積乱雲シミュレーションを用いた雷放電の研究。

- (2) 雷放電の進展過程に関する研究：ステップリーダー，リターンストロークなど雷放電諸過程に関する研究。
- (3) 雷放電データの利活用：雷放電データの航空分野への応用，雷活動の予測手法など。

コンピーナー：吉田智（気象研究所），林修吾（気象研究所），角村悟（気象研究所），森本健志（近畿大学），牛尾知雄（大阪大学）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=5906>) をご覧下さい。参加は無料です。

日時：2016年5月21日(土)（大会第4日）13:30～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナーホール417（大会A会場）

テーマ：「台風災害 ～台風列島でどう生き延びるのか？～」

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2016年度春季大会の開催に併せて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は、「台風災害」を取り上げます。我が国では、1959年の伊勢湾台風以降、台風観測網や防災整備そして予報技術の開発を国家政策とし

て推し進めてきました。その結果、台風による災害は半世紀前と比べて大幅に減少しています。しかし、平成23年台風第12号により死者・行方不明者90名以上、昨年台風第17号と第18号接近時では記録的な大雨により鬼怒川堤防は決壊と、今もなお甚大な被害は起きています。科学技術がこれだけ進展した現在においても、台風の脅威からのがれることはできないのでしょうか？そこで今回の講演会では、これまでの台風被害や現在の台風観測・予報をふりかえり、未来の台風予報や社会に伝える災害リスク情報、これからの報道や気象キャスターの使命について、一般の方々にも分かりやすくご紹介いたします。ふるってご参加下さるようお願いいたします。この台風列島で、君は生き延びることができるか？

テーマおよび講演者：

1. 「歴史に残る台風と防災力の向上」
大西晴夫（日本気象予報士会）
2. 「鬼怒川決壊をもたらした豪雨のしくみ」
津口裕茂（気象研究所）
3. 「台風観測・予報のいま」
室井ちあし（気象庁）
4. 「みらいの台風予報」
吉田龍二（理化学研究所計算科学研究機構）
5. 「気象情報から災害リスク情報へ」

- 竹見哲也（京都大学防災研究所）
6. 「台風報道のいまとみらい」
南 利幸（お天気キャスター）
7. 「パネルディスカッション」
司会：筆保弘徳（横浜国立大学）
総合司会 小田真祐子（気象研究所）

問い合わせ先：筆保弘徳（教育と普及委員会）
TEL: 045-339-3346（横浜国立大学教育人間科学部）
E-mail: msj-ed_2016@netsoc.jp

ジュニアセッションのお知らせ

関係者の大会参加は無料です。

日時：2016年5月21日(土)（大会第4日） 10:30～12:30
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 401・402・403・405会議室（大会ポスター会場）
主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：時々刻々変化し、人々の生活に大きな影響を及ぼす気象。若い人たちにとっても、興味は尽きないことでしょう。日本気象学会は、主として高校生世代を対象に、「ジュニアセッション」を開催しています。この企画は、生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を専門家の前で発表体験することを主な目的としています。競技ではありませんので、発表内容の優劣評価は行いません。気象や大気に対する生徒たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待しています。

発表資格：高等学校（新卒者含む）、高等専門学校生（1～3学年）の個人または団体（グループ）とします。また、中学生の発表も可とします。

発表内容・形態：発表形態はポスター・セッションとします。気象・気候や大気科学の観測・研究に関することであれば、広く発表を認めます。

申し込み方法：申し込みは日本気象学会ホームページから2016年1月11日から同年4月5日に行われました。必要事項を記入した所定の「参加申込書」の他、発表内容を要約した予稿（A4判1枚）が必要です。受理通知は同年4月中にメールでお知らせします。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、学会発表認定証を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨などを掲載し、顕彰します。
3. 春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講できます。
4. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内
TEL: 03-3216-4403 FAX: 03-3216-4401
E-mail: msj-ed_2016@netsoc.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第9回気象庁数値モデル研究会・第45回メソ気象研究会・第2回観測システム・予測可能性研究連絡会

日時：2016年5月17日（火）（大会前日）13:30～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「アンサンブル予報の発展と展望」

コンビーナー：佐藤芳昭（気象庁数値予報課）、加藤輝之（気象研究所）、榎本 剛（京都大学防災研究所）

内容：気象庁では現在、アンサンブル予報を、週間天気予報から季節予報に現業利用しています。これらのアンサンブル予報資料の活用を目指す試みは、気象庁のみならず他の機関でも進められていますが、そのような試みは、まだま

だ限定的です。一方、これまで決定論的予測に頼ってきたメソ現象の予測についても、アンサンブル技術を活用した予測可能性の向上に向けた取り組みが進められています。しかしながら、その開発や結果の活用方法については、さらなる検討が必要な状況です。このため、アンサンブル技術のメソ予報等短期予報への適用に当たり、気象庁数値モデル研究会、メソ現象の予測に知見のあるメソ気象研究連絡会、及びアンサンブル予測技術に知見のある観測システム予測可能性研究連絡会と共同で、本研究会を開催することにしました。本研究会では気象庁のメソアンサンブル予報システム、週間アンサンブル予報システムについての開発状況の紹介に加えて、関連する研究活動を行っている方

に講演を依頼し、話題提供をしていただくことにしました。多くの方々のご参加と今後の連携点や活用に関する議論をお願いいたします。

プログラム：

13:30-13:40 開会挨拶

13:40-14:05 「気象庁週間アンサンブル予報システムの現状と展望」

太田洋一郎（気象庁数値予報課）

14:05-14:30 「アンサンブル予報データを用いた成層圏極渦変動の予測可能性研究」

野口峻佑（京都大学防災研究所）

14:30-14:55 「北極海のラジオゾンデ観測データが冬の中緯度で生じる寒波の予報精度に与える影響」

佐藤和敏（極地研究所）

14:55-15:20 「アンサンブル予報データベースを用いた予測可能性研究」

松枝未遠（筑波大学計算科学研究センター/オックスフォード大学物理学部）

休憩

15:35-16:00 「気象庁メソアンサンブル予報システムの開発」
小野耕介（気象庁数値予報課）

16:00-16:25 「メソアンサンブル予報を利用した顕著現象の解析」

國井 勝・横田 祥（気象研究所）

16:25-16:50 「再生可能エネルギー発電出力予測のためのメソアンサンブル予測」

野原大輔（電力中央研究所）

16:50-17:15 「WRF-LETKFを用いたアンサンブル洪水予測の開発、鬼怒川事例への適用」

牛山朋来（土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター）

17:15-17:30 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研究所）、小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研究所）

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレは1Fをご利用ください（名札を提示されるとゲートを通してもらえます）。

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2016年5月18日（水）（大会第1日）

セッション終了後～2時間程度

場所：309会議室（センター棟3F）（大会B会場）

テーマ：極域における気象庁客観解析データの再現性と利用

趣旨：現代では、世界各国の気象機関によって数値解析予報システムに基づく大気再解析が実施され、長期間に渡るほぼ均質な大気データが提供されており、極域の気候・気象研究においても欠かせないデータとなっています。最近多くの再解析データがありますが、気象庁では電力中央研究所と共同でJRA-25が開発され、その後JRA-55とバージョンを重ねられて、現在は次期のJRA-3Q（Three Quarters of a century）が計画されています。JRA-55はJRA-25に比べて放射スキームやデータ同化手法、解像度などが改良され、期間が延長されました。極域ではJRA-25でみられた成層

圏の気温バイアスがJRA-55では解消されて品質が上がっています。一方、海氷の扱い方による対流圏下層の気温バイアスは依然残り、積雪深のバグが報告されるなど、利用する上での注意点もあります。今回は、JRA長期再解析や現業客観解析などの気象庁モデルがベースとなっているデータの極域における再現性と利用について、開発者と利用者の両方から話題を提供していただき、情報共有の機会としたいと思います。また、関連する話題をお持ちの方の飛び入りの発表を歓迎します（スライド1,2枚の発表など）。

1. 「趣旨説明」 堀正岳（海洋研究開発機構）

2. 「JRA55の問題点と次期再解析に向けて」 釜堀弘隆（気象研究所）

3. 「気象研究所における海洋・海氷データ同化システムの開発」 豊田隆寛（気象研究所）

4. 「GTMIP入力データセット作成を目的とした北極陸域再解析データ比較」 森淳子（国立極地研究所・海洋研究開発機構）、斉藤和之、宮崎真、末吉哲雄、GTMIPグループ

5. 「北ユーラシアの降水比較」 廣田渚郎（東京大学）

問い合わせ先：大島和裕（海洋研究開発機構）

TEL: 046-867-9261

E-mail: kazuhirou@jamstec.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2016年5月20日（金）（大会第3日）

18:00～20:00

場所：309会議室（センター棟3F）（大会B会場）

テーマ：「静止衛星からの大気化学観測の新時代」

内容：2018年、韓国の静止衛星搭載センサーGEMSが打ち上げられる予定である。GEMSはOMIと同様の紫外可視分光計であり、オゾン、二酸化窒素などの化学種とエアロゾルがその観測対象である。観測範囲は日本を含む東アジアから南アジアまでを網羅しており、経済発展に伴う深刻な大気汚染地域の現状を把握できると期待されている。同時期に米国ではTEMPO、欧州ではSentinel-5Pが打ち上げ予定である、北半球の主要な地域の大気中の化学種が静止衛星から観測される時代がまもなく到来する。静止衛星からの利点は、同じ箇所を継続的に観測することができることにある。このため、周回軌道衛星からの1日1回程度の観測では把握することが難しい短寿命化学種の日内変動なども観測できるようになるであろう。静止衛星から得られた反応性化学種の時々刻々の変動の様子は、おそらく我々がまだ見たことのない未知の世界を見せてくれるであろう。現在、韓国の研究者からは日本の研究者のGEMS計画への参加・協力が期待されているが、日本が観測範囲に含まれているにも関わらず、いまだ日韓の協力は不十分である。今回の研究会では、これまでGEMSのサイエンスチーム会議に参加した経験のある3人の講演者から、GEMS計画の概要紹介、対流圏下層オゾン観測の可能性、エアロゾル観測の可能性について話題を提供してもらい、参加者で討議を行う予定である。今回の研究会が気象学会会員のGEMS計画への関心につながれば幸いである。

「GEMS計画の概要」入江仁士

「衛星から観る中国オゾン汚染」林田佐智子

「ひまわり8号が捉えたエアロゾルイベント」弓本桂也

連絡先：林田佐智子（奈良女子大学）

E-mail: sachiko@ics.nara-wu.ac.jp

惑星大気研究連絡会

日時：2016年5月21日（土）（大会第4日）

18:00～21:00（予定）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センタースポーツ棟
第1研修室

テーマ：「あかつきの現況と今後」

内容：昨年の12月7日に気象衛星「あかつき」の金星周回軌道投入が成功しました。順調に各カメラによる金星大気の観測が始まっています。色々な波長による撮像により雲の動きをとらえ、それにより3次元的な風速分布を明らかにするのが「あかつき」の目的です。雲の動きから風速場を推定するなど従来の気象学と問題を共有し

ています。「あかつき」の成果により金星気象学が豊富な観測に立脚して本格的に展開することが期待されます。

今回の研究連絡会は時間が限られていますので、金星大気の観測を中心として議論をしたいと思います。研究発表など、参加に興味のある方はご連絡をお願いします。詳細は決まり次第 ymnet などでお案内します。以下の Web ページをご覧ください。 <http://wtk.gfd-dennou.org/>

当日の研究会には惑星気象に由来から興味をお持ちの方は勿論、「あかつき」の成功を契機に金星大気に関心を持たれた方も歓迎いたします。

連絡先：松田佳久（東京学芸大学自然科学系）

E-mail: wtk-staff@gfd-dennou.org

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会中の保育施設利用料の一部補助を行います。保育支援を希望される方は、2016年4月14日（木）までに下記担当者までご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：浅野 準一（気象庁）

E-mail: jasano@met.kishou.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みにのみ、企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです

(2016年3月25日現在)。*の企業は5月20日（金）と21日（土）、それ以外の企業は18日（水）と19日（木）の開設を予定しています。

いであ株式会社

株式会社ウェザーニューズ*

オフィス気象キャスター株式会社*

株式会社サーフレジェンド*

日本気象株式会社

一般財団法人日本気象協会

(五十音順)

秋季大会の予告

2016年度秋季大会は、2016年10月26日（水）～28日（金）に名古屋大学で開催される予定です。